

2007 年度 小委員会活動成果報告

(2008 年 2 月 12 日作成)

| | | | |
|------------------------------|---|------------------------------------|----------------------------------|
| 小委員会名 | 組積工法普及研究小委員会 | | 主 査 名: 上之園隆志 就任年月: 2007 年 4 月 |
| 所属本委員会 (所属運営委員会) | 材料施工本委員会 (組積工事運営委員会) | | 委員長名: 榊田佳寛 主査名: 守 明子 |
| 設 置 期 間 | 2007 年 4 月 ~ 2010 年 3 月 | | |
| 設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き) | <p>組積造建築物は、耐久性(長寿命)、高断(蓄)熱性能、高遮音性能、型枠の不要等の利点を有しているが、日本においては広く普及しているとは言いがたい。</p> <p>この小委員会では、1)組積造建築物に関する現状調査、2)普及阻害要因の分析、3)材料、施工、構造的な研究で打破できる阻害要因(不足研究課題)の抽出と対策、4)不足研究課題の一部実施を行い、組積工法の普及を図る。</p> <p>初年度: 1)組積工法の現状調査 2)建物種別ごとに普及阻害要因の分析</p> <p>2年度: 1)建物種別ごとに普及阻害要因の分析・抽出 2)材料、施工、構造的な研究で打破できる阻害要因の抽出と対策計画</p> <p>3年度: 1)阻害要因の整理と対策のまとめ 2)蓄積不足研究課題の提示と実施方策 3)蓄積不足研究課題の一部の実施</p> | | |
| 委員構成 (委員名(所属)) | <p>委員公募の有無: 有(委員は 2008 年度から)</p> <p>青木孝義(名古屋市立大学), 石井克侑(太陽セメント), 岡田敏夫(赤煉瓦協会), 笠井靖弘(北海道農材), 上之園隆志(ベターリビング), 川上勝弥(小山高専), 川島智生(京都大学), 千歩修(北海道大学), 高橋和雄(太陽セメント), 長谷川拓哉(北海道大学), 眞方山美穂(建研), 三田紀行(職業能力開発総合大学校), 守明子(名古屋工業大学)</p> | | |
| 設置 WG (WG 名: 目的) | 無 | | |
| 2007 年度予算 | 7,000 円 | ホームページ公開の有無: なし 委員会 HP アドレス: なし | |

| 項 目 | 自己評価 |
|--------------------------------|--|
| 委員会開催数 | 5 回(年度内計画を含む) |
| 刊行物 (シンポジウム資料等は除く) | 無 |
| 講習会 | 無 |
| 催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等) | 無 |
| 大会研究集会 | 無 |
| 対外的意見表明・パブリックコメント等 | 無 |
| 目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係) | <p>1)組積工法の現状調査(計画通り進行中) 各委員からの関係情報と、関係する情報を有している機関からの情報収集を行い、小委員会で検討した。</p> <p>2)建物種別ごとに普及阻害要因の分析(計画より若干遅れ気味だが進行中) 収集した情報と各委員の考えを基に、普及阻害要因及び発展すべき方向について検討・分析している。</p> <p>上記 2 点について、整理する予定である。</p> |
| 委員会活動の問題点・課題 | <p>1. 広い範囲から委員に参加してもらうため、旅費が不足している。</p> <p>他の委員会と同時開催、及びインターネット会議システムを利用して旅費不足に対応している。</p> |

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。